



鹿児島県立大口高等学校 同窓会通信

忠元 TADAMOTO

1
January
2025

2025

伊佐市高隈山より新年の朝日

各支部会長新年の挨拶
トピックス
(各地区同窓会開催報告等)



「新年のご挨拶」



鹿児島県立大口高等学校同窓会
会長 出木場 洋

同窓生の皆様、謹んで新年のご挨拶申し上げます。
新年明けましておめでとうございます。

去年は、能登半島の地震に始まり、飛行機事故など大変なスタートでしたが、今年のお正月はいかがお過ごしでしたでしょうか。

私事ですが、孫が七草の年代で、大口幼稚園でアーメンとお祈りしたそうです。思い起こしますと昔の七草は近所のおばさんから、七草粥を貰って、近所でお祝いしてもらっていたように記憶しています。

先日、同級生の飲み会で、10年後（84歳）はなんとかイメージ出来るけど、20年後（94歳）は想像ができないなど話で、盛り上がり最後は終活の話で終わり、自分の歳をひしひしと感ずる事でした。

さて、同窓会も今年はいろんな意味で大きな岐路にあります。皆様ご存じのように、母校大口高校は100周年を終えて、郵送による連絡をやめて、ホームページの活用を力を入れていますが、まだ、走り出したばかりで、周知がうまくいっていません事を

お詫びいたします。

本部同窓会も、関東、関西の方式を勉強さしてもらい、学年幹事の充実を目指して、市役所職員のOBの助言をもらいながら名簿作成に頑張っています、少々のお時間を頂き継続可能な組織再編を実行して参りますので、色々のご相談をいたしますので、是非、お力添えをお願いします。

今年の本部同窓会は、盆過ぎの8月22日（金）に予定しておりますので、帰省の日程の調整などお願い致します。ホームページの係の吉海様（61年卒）が仕事の合間に奮闘してもらっています事と、事務局の、小倉様（50年卒）が日々頑張っておられる事に感謝して、年頭のご挨拶といたします。

「同窓会の新しい風」



大口高等学校東京支部同窓会
会長 坂口純則

皆さん明けましておめでとうございます。
東京同窓会はコロナ禍での3年の中止を経て、参加者の減少が続いています。コロナ前は200人を超える状況で推移していましたが、一昨年175名、昨年149名と漸減しています。価格高騰により長年、開催場所として使っていた「東京ガーデンパレス」での開催は難しくなり、昨年は貸しホー

ル「損保会館」に変更しました。ホテル任せの運営から自分たちで運営する方式となり、関係役員の皆様にはご苦勞をおかけしました。会計的には150名ベースで採算が確保できる見通しがつきましたので、今年も「損保会館」で開催する予定です。昨年、企画はコストのかからない「内輪の手作りで」という方針で、

1. 伊佐市出身の世界で活躍しているリクルートホールディング社長「出木場久柁氏」からビデオメッセージを頂いた

2. 同窓会最高齢（94歳）で、千葉市美浜地区の地域活動で活躍中の鎌田繁さんに講演「フレイル予防」をお願いした

この二つのイベントは好評でした。特に鎌田さんの元気度には驚かされました。80代、90代の同窓生の方々も元気で、そして同窓会を楽しみにされている事を嬉しく思います。今は、団塊世代を含む70代が多くを占めています。皆さん、まだまだ若いし、卒業生が多い世代ですので、今年も多く参加者を期待しています。今年

の同窓会は56年卒が幹事となります。学年幹事の富重法生さんが企画を練っているところです。昨年の55年卒幹事も良くやってくれました。今年も手作りの新しい企画を楽しみにしています。

さて、現役員体制も5年を経過しました。丁度今年は巳年・脱皮の年でもあり、そろそろ世代交代の時が来たと感じています。若い世代に引き継ぐことで、若い世代の参加者が増えていく機会にもなると思います。私たちに続く世代は人材豊富です。新しい風を呼び込んで、70年も続いている伝統ある東京同窓会を更に盛り上げてくれればと願っています。

最後に、当会に毎年参加して頂き「ふるさと」や「母校」の今についてお話頂いている同窓会長出木場洋さん、吉満校長先生、橋本市長様には心からお礼申し上げます。今年も楽しいお話を楽しみにしております。それではまた、東京同窓会でお会いしましょう。

「昭和43年卒同窓会開催」



大口高等学校関西支部同窓会
会長 安永國廣

2024年11月25日・26日、霧島キャッスルホテルで開催しました。

2022年11月25日母校創立100周年記念式典前夜祭として開催した同窓会以来で鹿児島空港に集合、解散で貸し切りバスでの移動、曾木の滝観光（昼食）、地元からの参加者と空港（バス）からの参加者がここで合流。久しぶりの曾木の滝、コロナも落ち着き観光客も増えて駐車場も満杯となっていまし

た。霧島神宮を参拝して宿泊先の観光ホテルへ、ホテル直行組と合流、全員で26名と年々減少傾向になっているが元気なお顔に再会できて嬉しく思いました。

43年卒同窓会も新型コロナウイルス感染症に振り回され、それまで地元幹事の熱心な取り組みで定期的に開催していました。

一番印象に残っている同窓会は2020年3月2日の母校卒業式に、毎年古希を迎えた卒業生が式に参列して卒業生を励まし、お祝いをするイベントがコロナで中止になった事です。学校教職員、PTA、関係者で感染拡大を防ぐべく苦渋の決断で規模を縮小しての式典開催になったと思います。

これは生徒が可哀そうでなりません。私も既に参加で帰省していましたので故郷伊佐市で、学校関係者で手分けして参加希望者への通知を聞きました。

3月1日43年卒同窓会を開き翌日の卒業式に参加する気満々でいました。

関東から家族と一緒に参加希望の同窓生は航空券、宿泊ホテル等すべてキャンセルしたそうです。

後に電話したところコロナが落ち着けば家族旅行はいつでも行けるけど、生徒さんが可哀そうだったね、次回の同窓会には参加するからねとってくれました。

今回の霧島の同窓会は「喜寿：77歳」までは待てない、「元気な内に、会いたい時に会いたい人に来ておこう!」何かと機会あるごとに合言葉みたいに広がり実現しました。

一泊二日では語り足りませんでした、そこで次は「喜寿」「傘寿」まで話しが進みました。

それまで健康でないと・・・、席上「学校活性化のために」と寄付を募り11月26日学校長に寄付金を贈り、感謝状を贈呈して頂きました（母校同窓会 HP を閲覧下さい）。

関西支部同窓会開催日についてお知らせします。

年々参加者の減少をみえています。

幹事の努力不足もあるのか PR に努めたいと思っています。

これまで6月第3土曜日に開催していましたが、本校の行事と重なり参加が出来ないとの意見をもらいましたので、7月第3土曜日に開催したいと思っています、会員には早急に周知する様にします。

引き続き同窓会 HP を御覧になって情報収集をお願い致します。



令和6年度 大口高校本部同窓会



2024年8月26日に伊佐市「グリーンホテル」にて、大口高校本部総会及び懇親会が開催されました。今回は26年ぶり同校に赴任された廣瀬裕二監督も参加されました。廣瀬監督は1900年から8年間、同校野球部を指導し、92年のNHK旗争奪県選抜高校野球大会で優勝に導かれた名監督でいらしゃいます。現在の野球部員は2人、いずれも父親は

は廣瀬監督の当時の教え子です。野球部は復活し、本年度は5年ぶりに合同チームながら、全国高校野球選手権鹿児島大会への出場を果たされました。

懇親会では廣瀬監督との思い出を共有される方々など、大口高校の未来を語り合いながら参加者の皆さんは親睦を深められました。

令和6年度 大口高校東京支部同窓会



2024年6月8日に千代田区の損保会館「大会議室」にて、大口高校東京支部総会及び懇親会が開催されました。今年も校長先生、伊佐市長をお迎えして、母校や郷里伊佐市の近況についてのお話いただき、また大先輩の鎌田様

(S24年卒)に講演をして頂きました。

さらに、株式会社テイチクエンタテインメント所属歌手の「山本雅也」さんによるミニコンサートも開催され盛況のうちに幕を閉じました。

令和6年度 大回高校関西支部同窓会



2024年6月15日に大口高校関西支部同窓会の総会と懇親会が「がんこ桃谷店」で開催されました。

今年度の参加者は36名と例年より少ない人数でしたが、新規に3名の卒業生も参加されました。

また、橋本伊佐市長もご来賓頂き郷里の市政だよりを拝聴

し、改めて望郷の念を再確認できました。

今回、大口高校吉満校長先生のご協力もあり、母校文化祭のライブ中継を視聴しながらのアットホームな機会となり、焼酎の杯もすすみ楽しいひと時でした。

大回高校昭和43年卒業生同窓会



2024年11月26日に霧島キャッスルホテルにて大口高校昭和43年卒業生同窓会が行われました。皆さん75歳

とは思えないほどお元気で、日中はいろんな所を観光されていらっしまったようです。

■名門大口高校の復活に向けて



鹿児島県立大口高等学校
第27代校長 吉満庄司

昨今の高校野球は神村学園に代表されるように、私立高校が圧倒的な強さを見せています。しかし、かつては鹿児島商業や

鹿児島玉龍といった公立高校も甲子園常連校でした。我が大口高校野球部はというと、今から32年前の平成4年、NHK旗争奪野球大会で見事優勝を果たしています。このたび、NHKの「情報WAVEかごしま」という番組内で、「映像で振り返る32年前の大口高校野球部優勝」という特集が放送されました。決勝戦での鹿児島実業との死闘、試合終了後の廣瀬監督の涙のインタビュー。そして、大口市役所から商店街を歩いて大口グリーンホテルまでの優勝祝賀パレードと懐かしい映像が紹介されました。大口の町がこれほど沸いたのは、旧国鉄山手線が開通したときの薩摩大口駅でのセレモニー以来のことといわれています。番組は、生徒の減少に伴い野球部は休部状態が続いたこと、伝説の廣瀬監督が再び大口高校に戻ってきたこと、そしてかつての教え子の子どもたちが入部し野球部が

復活したことなどが紹介されました。廣瀬監督は、30年前と全く変わらない情熱を持ち続け、授業が終わると同時に生徒たちと一緒にグラウンドに走って行き、大声で生徒を鼓舞しながら練習に明け暮れる毎日です。バックネットの裏から練習を見に来る市民の皆さんの姿もときどき見られます。練習の締めくくりは、監督も一緒になって校歌の斉唱です。海音寺潮五郎作詞、古関裕而作曲の格調高い大口高校の校歌が、再び鴨池球場に響き渡る日もそう遠くないと期待が高まります。名門大口高校を復活させ、さまざまな面で伊佐市民の皆さまに元気を与えられるよう、生徒・職員一丸となって頑張っています。同窓生の皆さまにおかれましては、どうか温かい支援をよろしく願っています。

■ふるさとで集おう昭和50年のみんな～



大口高等学校本部同窓会忠元会
副同窓会長 山口智子

朝夕の登下校の大口高校生を見かけると、その中に自分の同級生の顔がある気がしてしまう程、高校生だったあの頃が今も身近な感覚で蘇ってきます。年を重ねるほどに懐かしさは増して、そんな想いは誰の心にもあるのか「同窓会をしよう!!」の声が集まって2年後に70歳の同窓会を計画しているところです。

「もう70歳・・・」と元気をなくしていない!! と会の名前は、前を向いていこうとの心意気を込めて「Go!!まる会」と卒年の昭和50年をテーマとして付けました。今のところ3か月に1回の間隔で準備会を開催していますが、会合の中で交わされる話はやはりあの頃のあれやこれやで盛り上がっています。南海繰り返されても同じように笑って飽きないのは、同じ時を共にした仲間ならではのことで、2年後、まだ何者でもなかったあの頃の顔に、経てきた人生が彩を加えた、たくさんの顔に会える日が楽しみでなりません。「ふるさとで集おう 昭和50年のみんな～」

